

## 令和元年度 がん・循環器病対策部会の開催概要について

## 1 開催状況

開催日	令和2年1月8日(水)
出席委員数	9名
主な議題	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分科会（がん分科会及び循環器疾患等分科会）の開催状況及び検討結果について</li> <li>神奈川県悪性新生物登録事業の実施状況について（報告）</li> </ul>

## 2 部会における主な意見

## (1) 各分科会の開催状況及び検討結果について

## ア がん分科会について

- 大腸がんの精検受診率が他がん種と比べても低いことが課題と考える。精密検査をどこで受けることができるか、すぐに分かるよう案内すれば精検受診率も上がるのではないか。また、大腸がんは早期発見すれば、治りやすいといわれているので、精検受診率の向上に努めてもらいたい。
- 胃がん検診では、エックス線検査より、内視鏡検査の方ががん発見率が高くなっている。エックス線検査では、早期の胃がんを発見することが難しくなっているように思われる。

## イ 循環器疾患等分科会について

- 循環器疾患は継続的にデータをみる必要があるが、死亡原因の疾患が変わってきているため、死亡の統計の取り方を変えていく必要があるとの意見があった。
- 特定健診及び特定保健指導の実施率は協会けんぽと国保が低い。専門職の数が足りないことも一因ではあるが、今後も各保険者が実施率の向上にむけて努力していく必要がある。
- 医療機関で特定健診受診後、明らかに特定保健指導が必要な方に利用券などの問題でタイムリーに特定保健指導を実施できないことが課題である。市の管理上によるものなのか、国保連の請求システムにあるのか、状況を確認し、改善できるところについては、取り組んでいくこととなった。

## (2) 神奈川県悪性新生物登録事業の実施状況について（報告）

- がん検診の精度管理として、がん検診の結果とがん登録をマッチングし、感度・特異度を出し、地域別で比較できるよう取組みを進めていることを共有した。